

隨泉寺寺報

平成19年(2007年) 4月号 第440号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

春季永代経法要

講師 正順寺 龍口了潤 師

講題 『苦悩の有情をすてずして』

『吹く風に 花橘やにほふらん

昔おぼほゆる けふの庭かな』(新古1953) 寂然 じゃくぜん

【通釈】「吹いてくる風に橘の花の香がにおうのだろうか。昔、仏が教えを説いたとき、かぐわしい風が会衆の心を随喜させたという話を思い出させる、有り難い今日の法筵だなあ。」

永代経とは亡くなられた人のご恩を偲ぶ時です。

故人を縁としてお寺に参詣し、故人をしのび、報恩の生活をすると共に、自分自身が聞法の縁をいただくためのものであり、また、すべての人が仏法に出会う場として大切な法座です。大事な方をなくされ、悲しみの中におられる方も、ぜひともお参り下さい。身をもって人生無常を教えてくださいました大切なご縁です。日頃忘れがちな【生死】の問題を真剣に考えてみましょう。先祖は、南無阿弥陀仏のお救いにあづかって浄土に往生され、ほとけさまになられました。これは阿弥陀如来はすべての人を救わずにはおかないと誓われましたので、間違いのない事です。ですから永代経の法座は、亡くなられた大切な方とまた会える大事なときです。お浄土からの風が吹いてくるときです。

4月の法座予定

4月 8日……………掃除 長者原東

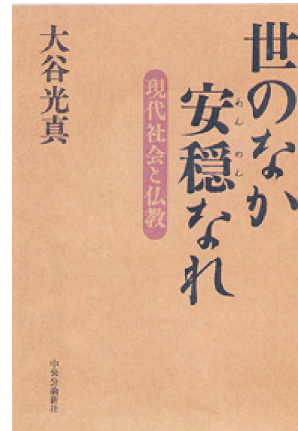
4月14日昼席午後1時より……………春季永代経法要

4月14日夜席午後7時半より……………出張法座 長者原東 栢本 義邦氏宅

4月15日朝席午前10時より……………春季永代経法要 仏婦総会 おとき

4月15日昼席午後1時より……………春季永代経法要

☆『世のなか安穩なれ』—現代社会と仏教—



ご門主のご著作『世のなか安穩なれ—現代社会と仏教—』が、3月25日に中央公論新社から刊行され、全国の書店で発売される。ご門主のご著作が一般書店から刊行されるのは、平成15年4月刊行の『朝(あした)には紅顔(こうがん)ありて』(角川書店刊)に続いて2冊目。本書は、ご門主がイラク戦争やカルト宗教、臓器移植といった現代が抱える諸問題をはじめ、浄土真宗の教義などに触れ、社会において仏教がどのような役割を果たすべきかを示唆(しさ)する現代人にとって必読の書。

第一章は、2005年4月にご門主が大学生を対象に行われた特別講座「現代社会と宗教」。第二章から五章まではその受講生からの質問に答えた回答集で「宗教とは何か」「仏教とは何か」「戦争と平和」「現代社会の問題にどう応えるのか」のテーマでまとめられている。

※広島駅や海田のフタバ図書にあります。 四六判・240ページ。定価1260円。

☆「良薬は口に苦し」

娘が風邪を引きました。39度を超える熱が出て心配しました。『タミフル』というインフルエンザによく利く特効薬があります。しかしまれに発作を起こすという危険があります。「良薬は口に苦し」ということわざがあります。「よく効く良い薬は劇薬でもあり、苦いのはそのよく効く成分のせいだ。だから苦いのは我慢して薬効を期待しよう」という理解です。薬害もあるから完全に否定はできないが、薬が苦いのはたまたまではない。「苦い」と感じる事が実は重要なのです。人間は身体中に神経が張り巡らされ、口はその最たる場所である。薬を飲んで「苦い」と感じたその味覚は身体中に伝達され、それだけで胃腸の調子が整のってくる。そのように薬を受け入れる体勢ができた上に、薬の成分が発揮されれば「良い薬」ということになる。この言葉の語源は、新明解辞典によると「忠言は耳に痛い意にも用いられる」ということで、近年まではよく用いられた人生訓であった。ところが今は、組織でも家庭でも苦言を呈[てい]する人が少なくなったし、耳を貸す度量のある人もなくなった。おかげで組織は「裸の王様」とそれを取り巻く媚びへつらい人間ばかりが取締役に残り、進言者は煙たがられ排除されていく。

政治経済や教育の話はさておき、人間の問題、自分自身のこととなると話は少々怪しくなる。苦言も呈[てい]するのはいいが、呈されるとやはり気分を害することが多い。

『蓮如上人御一代記聞書』に以下のような一節がある。
『わがまへにて申しにくくは、かげにてなりともわがわろきことを申されよ。聞きて心中をなほすべきよし。』

本願寺を日本一の巨大教団に育てあげた蓮如上人に対して、面と向かって悪口を言う人などいない。しかし苦言を呈されることの無い危うさを熟知してみえた上人は「面と向かって言えなければ陰口でもいいから申してくれ。それを伝え聞いて心中を直すから」と言われたわけである。

今から始まる

新しい「きょう」一日

私は、今、長女が三歳の秋、お医者さまから「お気の毒ですが、この病気は百人中九十九人は助からぬといわれているものです。もう今夜一晩よう請け合いません」といわれた晩のことを思い出しております。

脈を握っていると脈がわからなくなってしまう。いよいよ別れのときかと思っていると、ピタピタッと動いてくれます。やれやれと思う間もなく脈が消えていきます。体中から血の引いていく思いで、幼い子どもの脈を握りしめていると、かすかに脈が戻ってくれるのです。このようにして、夜半十二時をしらせる柱時計の音を聞いた感激。「ああ、とうとうきょう一日、親と子が共に生きさせていただくことができた。でも、今から始まる新しいきょうは～」と思ったあの思い。「ああ、きょうも親子で生きさせていただくことができた」「ああ、きょうも共に生きさせていただけた」というよろこびを重ねて、とうとう新しい年を迎えさせていただくことができた日の感激。



「ありがとう」での別れ

中野東6丁目44-9-1 岩本 一二三
早いもので父が亡くなってから一ヶ月が過ぎました。入院生活が長かったせいか病院に行けば今でも嬉しそうな父の笑顔に会える気がしてなりません…。

外泊が叶わず正月を病院で迎えたため、病院のベッドの上で5人の孫全員にお年玉を渡し、透析治療の無い1月2日に本人の希望で、私と息子が家から持参したすき焼きとお餅、妹が持参したおせち料理を美味しいと言って食べ、無事正月を迎えられたと喜んでいたその翌日に様態が急変し、その翌々日の1月5日に3人の子供夫婦と5人の孫に看取られながら帰らぬ人となりました。

考えてみると不思議なもので、まるで自分がお浄土に旅立つのがわかっていたかのようです。最年長の孫は今年32歳になりますが10年振りにお年玉をもらい驚いていました。様態が急変した夜、3人の子供夫婦と5人の孫が全員そろろうのを待っていたか

のように、みんなに囲まれ、みんなに聞こえるように声を振り絞って、「ありがとう、ありがとう、みんなありがとう！」と言った後に昏睡状態に陥りました。「あ・り・が・と・う」という言葉が父から聞いた最期の言葉となりました。

父に対してはわだかまりや色々な思いもありましたが最期の「ありがとう」の一言ですべて解けてしまい、いい父親だったという思いだけが残りました。

上手く表現できませんがこのような自分自身の感情の変化は初めての経験であり、私にとって貴重な経験となりました。七日参り毎にみんな集まって父の話をしていますが、父の死を通してこれからの自分自身の在り方を見つめ直すことができたと感じているのは私だけではないようです。

法名 釋東恒 俗名 岩本東一 平成19年1月5日往生 行年80歳

☆ RCC ラジオ「ことばの道しるべ」

○…がんばろう安芸門徒

広島といえば「安芸門徒」、その心を多くの広島の人々に知ってもらいたい思いで、平成18年9月に「浄土真宗安芸門徒の会」が結成されました。そこで仏さまのこころを広く伝えるため、RCCラジオ生放送番組の中に織り込む方法を模索いたしました。

○…ラジオ放送から実践に

有志の中、僧侶の元RCCプロデューサー経験者のアドバイスを受けながら、RCCスタッフと何度も詰めの会合を持ちました。その結果、僧侶は出演しないで「浄土真宗安芸門徒の会」が放送原稿を提供して、アナウンサーの目線で聴取者に伝える案でまとまりました。煙石博と松本裕見子の「土曜はドドーンと満員御礼」の番組の中にタイトル「ことばの道しるべ」としてスタートしました。



土曜日午後の明るい生番組ですので、RCC側は「抹香臭く」なるのを懸念し、私どもは仏法のみ教えが思うように伝わらない物足らなさを感じ、生放送の難しさを知りました。しかし、試行錯誤を繰り返して番組に溶け込んでいき、半年が過ぎました。沢山の方々の反響を得て、「電波による辻説法」の活動の継続することの大切さを感じました。そこで多くの有志のもとに正式に「浄土真宗安芸門徒の会」を発足いたしました。こころ豊かな社会を目指し、仏の心を広く伝えるために「ことばの道しるべ」の存続の大切さを痛感いたしています。

『ことばの道しるべ』は毎週土曜日は

「俊雄と裕見子のおもいきり土曜日」生放送のなか

午後2時45分～50分頃に放送されます。